



まきりの華22

2022年7月号
山梨大学教育学部附属
幼稚園・小学校
中学校・特別支援学校

昨年度に引き続き、山梨大学教育学部附属の4校園（幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校）の様子を地域等のみなさんにお知らせするため、季節毎（年3回）「まきりの華（か）」を発行いたします。御覧いただいた感想等がありましたら、各校園にお寄せください。

幼稚園

『池の水がなくなった！』—学びの芽生え—

幼稚園の中庭には、10年ほど前に子ども達が作った池があります。5月上旬、その池の水がなくなってしまったのです。年長組の子ども達は、「池の水がなくなった！」と大騒ぎ。A「草がいっぱいだからかな？」、B「水を誰かが飲んだんじゃないの？」、C「どこかに穴が空いちゃってるんじゃない？」、D「下に砂があって、しみこんじゃってるかもしれない」、E「土の中は、海とか川に繋がってるかもしれない」、F「暑さで、溶けちゃうのかな」、G「アメンボが飲んじゃったのかも」などなど、子ども達の想像は、どんどん膨らんでいきます。「このままじゃ、池の中のヤゴやイモリが危ない！何とかしなくちゃ！」と、子ども達は、新しい池を作ろう、と考えました。



生き物がよく見えるように、場所は「保育室の前」と決め、掘り進めていきます。が、様々なトラブルが発生！

まず、土が硬くて作業が進みません。子ども達は、砂場で遊んできた経験を活かし、『水を流して土を軟らかくすること』で解決！掘った穴にたっぷり水を入れて「池ができた！」と喜んだのもつかの間、翌日にはカラカラになってしまいました。子ども達は、「これじゃあ、土が水を吸っちゃうから、ビニールシートを敷こう！」と考えますが、大きさがわからない・・・。H「測る？センチ

とか？」I「まきじゃく！」J「指でも測れる！」K「寝てみる？自分をものさしにすればいいよ」と、知恵を絞って考えていきました。



最終的に担任の助けを借り「巻き尺」を使って、「340」と「270」の長さのシートが必要だとわかりました。考え、試しながら、子ども達は、新しい池作りに奮闘中です。

幼児期においては、豊かな体験が、友達と力を合わせることや文字や数への関心などの「学びの芽生え」を育てていきます。子どもの思いから始まる活動が、小学校以降の「学び」の土台作りにつながっているのです。

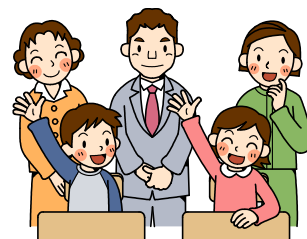
幼児期の子どもが、大人も顔負けの試行錯誤をしながら活動に熱中する姿に驚かれたのでは？ その活動を、教諭や保護者がしっかりと見守り、支え励ますことが大切です。

園長 若本純子

園児募集説明会を8月27日(土)に行います。詳しくはQRコードから、本園HPをご覧ください。



小学校



初等教育公開研究会を行いました！

6月25日（土）に初等教育公開研究会を行いました。人数制限をしながらも3年ぶりに参集での開催ができ、県内の先生方に子ども達の様子を見ていただくことができました。当日は、現時点では最大限の200名を超える参観者をお迎えし、各学年・各教科で合計17の授業を公開しました。

7月23日（土）には、当日の授業をビデオ配信した内容をもとに、オンラインで全国の教育関係者の皆様と話し合い、**慶應義塾大学教授の鹿毛雅治先生**からの講演会も配信する予定です。

附属小学校の授業の様子を広くお伝えするとともに、皆様のたくさんのご意見を参考にさせていただき、附属小学校の研究をさらに推進していきたいと思えます。



研究主題・副題

【各学年の公開授業の様子（抜粋）】



5年・外国語



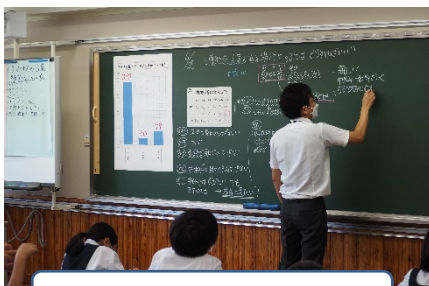
1年・道徳科



1年・体育科



5年・社会科



4年・総合的な学習の時間



4年・算数科

教育委員会や大学のコロナ対応の変更により、学校行事が従来の形式に戻つつあります。

6月10日の親子清掃では子どもと保護者が一緒になって校内美化に協力していただきました。修学旅行や校外学習も無事行われ、1学期の終業式は全校生徒がそろって行う予定です。また、6月25日には3年ぶりに他校の先生方に本校に来ていただいて公開授業

が行われました。

しかし、まだ油断はできません。本校でも散発的にコロナ感染者が出ています。学級閉鎖がこれまでに1日だけであったことは不幸中の幸いでした。今後も大学と保護者の皆様との協力の下、子どもたちが元気に学校に来ることができるよう、学校行事を十分楽しめるよう努力して参ります。



校長 宮崎淳一



中学校

われらの道は ここにあり

進路選択に向けて 5月30日(月)には、前期中間テストが行われました。1年生にとっては初めての定期テストです。テスト期間中の学習相談にも、多くの生徒が参加し、下校時間ぎりぎりまで質問したり、問題を解いたりしている姿が見られました。2・3年生も熱心に学習相談に参加する生徒が多く、特に3年生は、進路に直結する実感をもって取り組んでいました。もちろん、進学には1年生の成績から関係するのですが、進路選択が目前に迫る3年生の真剣な様子はさすがでした。3年生はもちろん、1・2年生も、目標の実現に向けてできることを確実に増やしました。日々の積み重ねが自信につながり、自信が結果につながることを信じて、全力で取り組みました。



テストに取り組む様子

選手壮行会



代表生徒による選手宣誓

甲府市中学校総合体育大会に向け、6月7日(火)から部活動強化期間を設定して取り組み、6月13日(月)には、選手壮行会が行われました。

コロナ禍のため、体育館には選手と生徒会本部、吹奏楽部、応援団しか集まれませんでしたが、野球部部长と女子バスケ部部长の選手宣誓、各部の決意表明の後、吹奏楽部と応援団の応援で選手の士気を高めることができました。教室に残った生徒も、直接声援を届けることはできませんでしたが、心のこもった応援を行いました。

甲府市総合体育大会

6月17日(金)・18日(土)に行われた総合体育大会は、屋外競技の一部でガイドラインに従い保護者の観戦が解禁されました。選手は試合ができることに感謝しながら、全力で戦いました。そこには、勝ち負けには関係なく、少しずつでも日常生活が戻ってきたことに感謝する姿がありました。

3年生にとっては最後の大会となってしまいましたが、満足感の溢れる姿が印象的でした。個人競技や個人戦では多くの選手が県大会にコマを進めました。



応援団によるエール

附属中学校の校歌には、『われらの道はここにあり』という歌詞があります。昔から大切にされており、学校パンフレットやホームページのトップページに記載されているのももちろんのこと、Tシャツのロゴ等にも使われています。

今はコロナ禍ですので、大きな声で肩を組んでこの歌詞を熱唱することはできませんが、With コロナの時代に教職員一同、がっちり肩を組んで、生徒とともに附属中学校の『われらの道』を歩んでいきたいと考えています。

校長 志村結美

特別支援



本年度もコロナ禍での学校生活がスタートしました。新しい仲間や先生・教室にも徐々に慣れ、それぞれの個性を発揮しながら、日々充実した学校生活を送っています。

小学部 高学年校外学習



6月7日に、小学部高学年6名が校外学習に出かけました。生活単元学習でトマトやハーブを栽培していることと関連させて、午前中はトマト農園での収穫体験、午後は勝沼ハーブ庭園での見学や石鹸づくり、足湯体験や買い物学習を行いました。日程や活動に見通しをもち、目を輝かせて過ごした1日でした。

あった！！大きい！



中学部 マーブリング



美術では、授業のはじめにいつも題材のテーマをめぐって、みんなで自由に発想を出し合います。見立ての楽しさを存分に味わうのです。この日は、赤、黄、青色の三色のマーブリングでした。竹串を動かす速さで模様の出方が変わることを、体験を通して学びました。目の前の水面に現れた模様がきれい、集中して取り組んでいました。和紙と厚紙に模様が写し取れることにもびっくり、わくわくの授業になりました。



高等部 職場見学・体験



高等部生徒は現場実習や職場見学・体験という活動を通して、卒業後の自分の進路を考える学習をしています。6月には2つのグループに分かれ、「ぎんが工房」と「KEIPE 甲府」の事業所を訪問しました。どちらの職場も様々な仕事があり、働いている方々は真剣な表情でした。また、作業体験では実際の仕事に取り組み、貴重な経験をさせていただきました。次に控えている現場実習に向け、働くことについてより深く考える機会となりました。



いまだ新型コロナウイルスの感染状況が気になる日々が続く、海の向こうでの争いもまた気がかりな状況です。

そんな日常でふと頭に浮かんだ文字が「静」と「清」です。いずれの文字にも入っている

「青」には、「おさまる」「すみきる」という意味があります。私たちを見守ってくれている「青空」は、きっと静かで清らかな日々をもたらせてくれると信じています。

校長 井坂 健一郎